

第 98 回資金管理業務諮問委員会 議事録

1. 日時:2022 年 9 月 30 日(金)14 時 00 分～16 時 00 分
2. 場所:公益財団法人自動車リサイクル促進センター 第 1・第 2 会議室
3. 出席者:菅原委員長、井岡委員、大沼委員、高岡委員、村上千里委員、山下委員、山田委員 以上 7 名
その他 経済産業省・環境省担当官、公益財団法人自動車リサイクル促進センター役職員が出席
4. 議題:①2022 年度第 1 四半期の概況【報告事項】
②2022 年度第 1 四半期の決算報告【報告事項】
③2022 年度第 1 四半期の運用実績【報告事項】
④インボイス制度への対応【報告事項】
⑤実費請求方式への対応【報告事項】
⑥ユーザー理解活動の取組状況【報告事項】

5. 議事録

(1)議題①について

2022 年第 1 四半期の概況について、事務局から資料「第 98 回 資金管理業務諮問委員会」の 3～6 ページにて報告した。

<主な意見>

なし

(2)議題②について

2022年度第1四半期の決算報告について、事務局から同資料の7～18ページにて報告した。

<主な意見>

【委員A】

エアバッグ類の預託単価が上昇しているが、エアバッグ類の処理費用が上がるのはどのような理由が考えられるか。

【JARC理事A】

理由はいくつか考えられるが、まず一つ目に、エアバッグのリコールの影響で車上作動処理に対してリスクを感じる業者が増加したことにより、取外回収が増え、処理費用が上がったことが挙げられる。二つ目に、1台あたりに搭載されるエアバッグの数が増加している

ことに伴い、処理費用も上昇していることが挙げられる。三つ目として、車上作動処理の許可が取れない外国人業者などが増えており、取外回収が増え、処理費用が高くなっているということが考えられる。

(3) 議題③について

2022 年度第 1 四半期の運用実績について、事務局から同資料の 19～24 ページにて報告した。

<主な意見>

【委員B】

資料の22ページ、JARCが取得したサステナビリティ・リンク・ボンドの発行体である滋賀県は格付けを持っていないようだが、格付けに関するルールはどうなっているか。

【事務局】

運用対象資産のうち、クレジットリスクがあると整理している財投機関債及び社債については、AA格以上の格付けの発行体が発行する債券を取得するというルールとなっている。

【委員C】

今後、もし市場の金利が上昇した場合にはどのような影響が考えられるか。

【事務局】

金利が上昇しても、本財団の資金運用においては、ラダーの構築に支障が無い限りは殆ど問題ない。

【委員 B】

JARC の運用は満期保有を原則としており、ラダー型資産構成を構築していることから、保有債券に対する金利の動向はあまり気にする必要はないと考える。

今後の金利については、日本は他の主要国のように金利を上げるといった金融政策の方針の変更は当面考えられない状況である。ただしリスク管理という意味では金利が急上昇した場合も想定しておく必要はある。

金融市場の動向を踏まえ、今後のJARCの運用については、金利動向に関わらず基本方針は変えずに粛々と運用していくのが適切と考える。

(4) 議題④について

インボイス制度の対応について、事務局から同資料の 25～30 ページにて報告した。

※質疑応答は非公開資料に基づくため非公開

(5) 議題⑤について

実費請求方式への対応について、事務局から同資料の 31～34 ページにて報告した。

※質疑応答は非公開資料に基づくため非公開

(6) 議題⑥について

ユーザー理解活動の取組状況について、広報・理解活動推進部から別冊「(報告)ユーザー理解活動の取組状況」にて報告した。

<主な意見>

【委員A】

認知度が上がるよう様々な工夫されていて素晴らしいと思う。

【経済産業省】

小学生新聞に掲載されている自動車リサイクルの内容は、大人にとっても勉強になる内容だと思う。

以上